

● 13病棟 **山崎 由季**



気づけばあっという間に社会人3年目となりました。社会人としても、看護師としてもまだまだ至らない点も多くありますが、初心を忘れず知識・技術の向上をめざし、頑張っていきたいと思えます。またプライベートも充実して過ごせるよう、現在テニスを練習中ですが、他にも趣味を増やしていきたいです。

● リハビリテーション部 **黒塚 智幸**



いつの間にか入社して12年が経過しました。最近急激に体力が落ち、お酒があまり飲めない体になりました。今年目標は野球で体力づくりを行い、もう一度お酒が飲める体を手に入れることです。そして野球で全国大会連覇をめざし、優勝した際にはビールかけを行いたいです。

● 栄養管理部 **瀬戸 瑠璃**



常に初心を忘れず全力で物事に取り組み、また感謝の気持ちを持ちながら仕事に携わりたいです。社会人一年目で頼れない部分もありますが、一生懸命頑張っていきたいです。プライベートでは再びヨガを始めようかと考えています。今年一年充実した日々を送れるよう、精進していきます!!

● 脳血管内科医長 **大崎 正登**



昨年から医長という立場になり、実臨床で主治医として診療することよりも、若手の指導医として教育する役割が大きくなりました。自分が勉強したり、研究したりするのは異なり、若手の指導の難しさを実感しております。彼らがより高いモチベーションをもち、充実した経験を積むことができるように努めたいと思います。

● 11病棟 **碓 千尋**



周りのスタッフや院内にいる姉2人に支えられて毎日充実して過ごせています! 私も今年は3年目となってしまいます。まだまだ未熟で自分が先輩へ指導できるか不安ですが、今まで周りの先輩方に習ったことを教えていけたらと思います。今年も精一杯がんばります!!

● 呼吸器外科部長 **塚本 修一**



精神年齢(まだ20代のつもり)と実年齢とのギャップが広がる一方で、実年齢を裏切らないのが体力や視力に体重。これじゃいけないと奮起して、一生のうちに一度くらいはフルマラソンに挑戦だと昨年北九州マラソンに出場。あの完走した時に感じた達成感が忘れられず、懲りずに今年も北九州マラソンに出場します。

診療科目

内科	肝臓内科	消化器内科	循環器内科	糖尿病内科	腎臓内科
心療内科	脳血管内科	呼吸器内科	小児科	外科	消化器外科
呼吸器外科	血管外科	脳神経外科	整形外科	リウマチ科	リハビリテーション科
形成外科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科
緩和ケア外科	病理診断科	放射線科	麻酔科	歯科・口腔ケア科	

専門外来

内科	血液外来/甲状腺外来/膠原病外来/ ペースメーカー外来/腹膜透析外来/ 禁煙外来	呼吸器内科	SAS外来(睡眠時無呼吸症候群)	整形外科	リウマチ外来
心療内科	カウンセリング	小児科	小児循環器/小児神経/ 小児腎臓/小児肥満	放射線科	放射線治療外来
		外科	乳腺外来	緩和ケア	緩和ケア外来

休日診:土曜、日曜、祝日

■ **予約センター: 093-671-5489** ごよやく

■ **夜間休日急患受付: 093-672-3111**

全科予約制

予約受付時間 8:00~16:00
当日予約 10:30まで



使命 住民の暮らしを支え、
健康長寿をめざした
地域づくりに貢献します

理念 皆さまが納得・安心する最良・最適の医療を
提供します
職員が誇りと自信を持つことができる
職場づくりを追求します
伝統を継承し、未来を見据え、
地域から信頼される病院をめざします

今年度、夏号より担当しております。広報初めて携わるので、分からないことが多いですが、広報を担う役割の一員として、足手まといにならぬよう一生懸命取り組んでいきます。
看護部 渡邊 恵

こんにちは
**せいてつ
病院**です

発行日
2015年1月1日

発行部数
4,500部

社会医療法人 製鉄記念八幡病院
〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1
TEL 093-672-3176
http://www.ns.yawata-mhp.or.jp
編集・発行責任者: 病院長 石末 隆男

● 広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp
● 地域医療連携のお問い合わせ TEL093-671-9700

デザイン編集・印刷: よしみ工業株式会社 表紙イラスト: かわぐち たまよ

こんにちは せいてつ 病院です

地域医療支援病院 日本医療機能評価認定病院
社会医療法人 製鉄記念八幡病院
http://www.ns.yawata-mhp.or.jp

せいてつびょういん

検索

特集

進歩する緩和ケア

● **こんにちは探検隊**
ひろた消化器科・内科クリニック

● **診療科のご紹介**
入院支援センター

● **せいてつNEWS FLASH2014**

● **医療をささえる看護のちから**
C外来

● **なるほど! なっ得! 薬の話**
薬と服用時間

● **2015年 新年のご挨拶**



Tamayo



当院の緩和ケア病棟は2003(平成15)年11月に設置されました。当時はまだ全国的に少なく先進的な取り組みでしたが、今では11年を超える実績と経験からの緩和ケア診療を提供しています。昨年10月より新しい緩和ケア外科部長が就任しました。多様化したがん診療において、終末期医療だけではなく急性期医療とのコラボレーションで進化した緩和ケアをめざしています。

緩和ケアの新しい位置づけ

緩和ケアについて、WHO(世界保健機関)では以下のように定義されています(2002年)。「緩和ケアは、生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的、心理的、社会的な問題、さらにスピリチュアルな問題を早期に発見し、的確な評価と処置を行うことによって、苦痛を予防したり和らげることで、QOL(人生の質、生活の質)を改善する行為である」としています。「終末期」という言葉はどこにもありません。がんに対する緩和ケアは、終末期医療と同義語ではないのです(図1)。厚生労働省の「がん対策推進基本計画」では、「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」を重点的に取り組むべき課題として位置づけています。手術や抗がん剤、放射線治療などの抗がん治療が行われる患者さんに対しても、がんに伴う痛

みや吐き気などの諸症状、精神的な苦痛などに早くから介入し、解決することが必要です。緩和ケアを早期に介入させることでがん患者さんが、よりQOLの高い期間をより長く過ごせることが報告されています(図2)。今後がん診療において、急性期医療と並び立つ2本の柱の一つとしての位置づけが強まっていくことが予想されます。

図1 緩和ケアとがん治療のチャート

がんの治療に伴う苦痛(吐き気、食欲低下、痛みなど)の状況に応じて、緩和ケアはがん治療とあわせて行われます。



日本緩和医療学会 緩和ケア サイトより

新しいお薬と機器

この数年間で多くの新薬が医療現場に投入されています。例えば、以前はほとんどモルヒネ製剤だけであった鎮痛薬も、より副作用の少ない薬剤、投与経路が選択できる薬剤(貼付剤、注射剤、バツカル錠、舌下剤、坐薬など)(図3)や、また携帯用シリンジポンプ(図4)など新たな機器などが多数登場しています。それに伴い緩和ケアには高い専門性が要求されるようになっていきます。

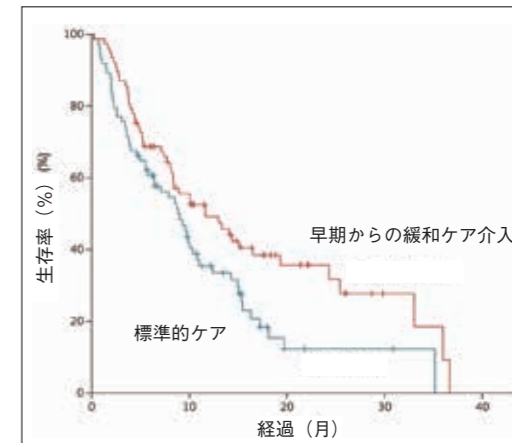


図2 N Engl J Med 2010;363:733-42より



図3 フェンタニル貼付剤：一回の貼付で24時間の効果が期待できます



図4 携帯用小型シリンジポンプ。注射をしながら外出や外泊が可能です。

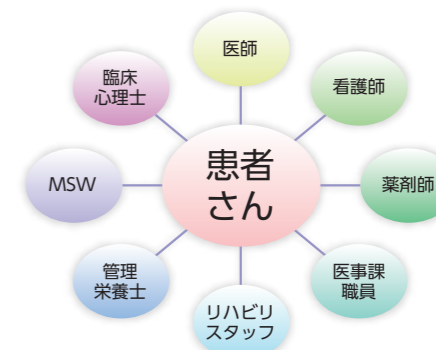


図5 緩和ケア=チーム医療

緩和ケアチーム

当院の緩和ケアチームは、専任医師2名、心療内科医師1名、薬剤師、管理栄養士、看護師、リハビリ技師、メディカルソーシャルワーカーなどのメンバーで構成されています(図5)。毎週急性期病棟をラウンドし、がん患者さん特有の症状の改善など早期の介入を行っています。確立した診療体制と多職種の専門家集団で構成された充実したチームであると自負しています。毎週水曜日の外来では県外など遠方からの受診も含め、少しでも患者さんやそのご家族のお役に立てるように診療を行っています。



緩和ケア病棟 TEL 093-671-9723

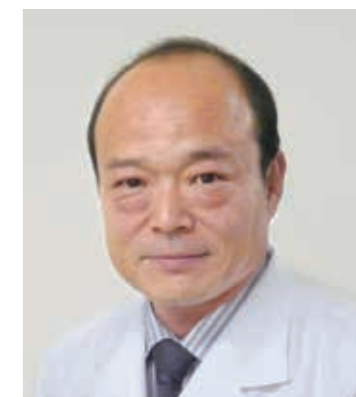
わたしたちの夢

われわれ緩和ケアチームのもう一つの目標は、在宅復帰ができるように患者さんとそのご家族を支援することです。緩和ケア病棟と称していた当院23病棟は昨年9月より「緩和ケア、ペインコントロール、在宅復帰支援」病棟にその名称を改めました。在宅復帰支援には、病診連携、病病連携が不可欠であり、今後さらに近隣の医療関係者の皆様との連携を深めて参りたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。高齢化が進む八幡東区は、いわば日本全体の未来を先取りしている地域でもあります。地域包括医療の中で当院緩和ケアが一つのモデルになれるよう努力して行きたいと考えています。

消化器外科部長・緩和ケア外科部長

牧野 一郎
まきの いちろう

日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
日本消化器病学会専門医
日本がん治療認定医機構
がん治療認定医・暫定教育医
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
日本緩和医療学会会員



ひろた消化器科・内科クリニック

今回、探検隊は八幡西区にある「ひろた消化器科・内科クリニック」を訪れました。スタイリッシュな建物の中に入ると、廣田千治院長が優しく迎えてくださいました。お父様が開業医だったので小さい頃から医者になる、いつかは開業しようと思いつかれていたそうです。製鉄記念八幡病院をご退職された後に開業され、地域に根ざした診療を行ってられます。



院長 廣田 千治 先生
ひろた ちはる

Q：貴院のあゆみをお聞かせください

A：平成15年に開院し、11年になります。もともと地元ではありませんでしたが、妻がこの土地に詳しくあったということもあり、この地に開院しました。消化器科で腹部症状を中心に、なかでも内視鏡検査を中心に診療を行っています。また、高齢の方が多い地域でもあり、生活習慣病の患者さんも増えてきているため、その診療にも力を入れています。



パートを含む3名が働いています。とても明るいスタッフばかりです。

Q：廣田先生のモットーをお聞かせください

A：病院に来る(かかる)までに時間を要していることが多いため、「迅速に診断し、治療に結びつけること」を大事にしています。

Q：当院へのメッセージをお聞かせください

A：消化管出血の患者さんが来たときに、迅速に対応してくれることや、スタッフが電話連絡した際にも対応の感じがとても良く、連絡しやすい病院であると感じています。また、患者さんも退院後に喜んでお礼を言いに来てくれることも多く、紹介した側としても、とても嬉しく感じています。

Q：貴院の特色やPR点をお聞かせください

A：目標に向かってコツコツと、患者さんと一緒に考えながら、診療をしていくように常に考えています。スタッフは、看護師が6名、事務職は



ひろた消化器科・内科クリニック

北九州市八幡西区竹末2-1-28
TEL 093-645-1211

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:30	○	○	○	○	○	○	△
14:30~18:00	○	○	△	○	○	○	△



ロードバイクでのサイクリングがご趣味という廣田先生は、物腰がやわらかく、いつまでも患者さんの話を聞いてくれそうな、聞き上手な先生との印象を持ちました。スタッフの方とも、とても仲が良く、取材中のやりとりでもチームワークの良さを感じました。建物もハイセンスで、綺麗で開放感のあるクリニックでした。



今回の探検隊

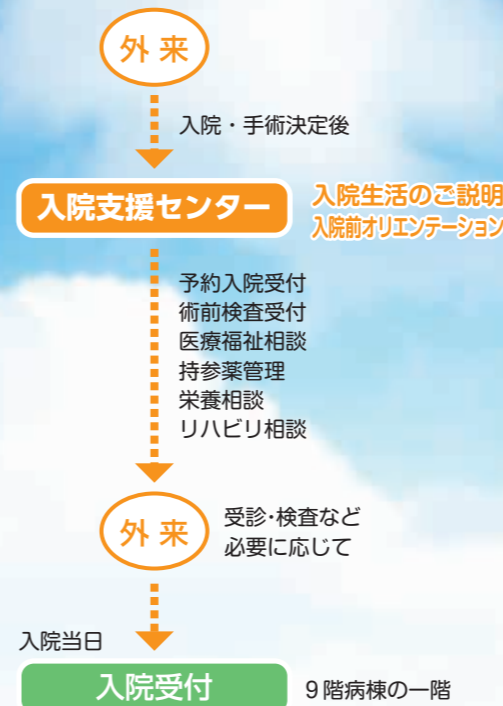
看護部 松尾 裕美
経営管理部 秋吉 裕美

安心・安全にご入院していただく
患者さん満足度No.1をめざして

入院支援センター

当院では、平成26年11月4日に「入院支援センター」を開院いたしました。当センターは、患者さんの入院が決まった時から早めに、その後の検査・入院経過・治療等の説明を、患者さんやその家族にきめ細やかに行うことにより、検査や治療についての理解をより深めていただき、不安なく入院していただくことを目的としています。

■入院までのながれ



医師や看護師のみならず、薬剤師、医療相談員、管理栄養士、理学療法士、医事課職員、医療事務作業補助者などの多職種のスタッフが連携して、①予約入院の申し込み受付 ②入院や手術オリエンテーション・術前検査の説明 ③退院に向けた相談 ④持参薬の管理 ⑤栄養指導 ⑥リハビリテーションの術前指導 ⑦術前の歯科・口腔ケアの調整などを行います。また、これらのことを入院前に行うことにより、手術に伴うリスクを低減でき、入院期間も短くなるといった効果も期待できます。

患者さんがより安心して、より安全に入院加療、手術を受けていただけるよう、職員一同これからも努力していきますので、「入院支援センター」をよろしく願いいたします。

副院長・入院支援センター長 東 秀史



せいてつNEWS FLASH2014

4月

105名の新入職員が入社しました



歯科・口腔ケア科を新設しました



クリニカルパス大会

10月



減塩イベント

1月



中学生職場体験

7月



ふれあい看護体験



一日看護体験

8月



院内報「病院業務の基礎知識」
第18回全国病院広報研究会 優秀賞

6月



地域医療連携のタベ

5月



入院会計窓口が新しくなりました

9月



2025ビジョン意見交換会

地域包括ケア病棟を
設置しました

11月



入院支援センターを
開設しました



第16回フォーラム(医療の改善活動)
全国大会in福井 優秀賞



C外来

小児科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科



外来の 基本方針

1. 紹介元医療機関の信頼を基本に安心・安全な医療を提供します。
2. 医師をはじめ病院職員と連携のもと、最良で専門性の高い外来診療を提供します。

C外来は、耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科・泌尿器科・小児科の5科で構成されています。

耳鼻咽喉科、眼科では網膜硝子体手術、白内障手術などの眼科外科治療を中心に診療が行われています。角膜疾患に関しては、アメリカのアイバンクと提携して角膜移植手術も行っています。皮膚科では、感染症、アレルギー、自己免疫の異常、代謝異常、皮膚細胞の異常増殖、内臓疾患の関連など携わっており、泌尿器科では、泌尿器科疾患全般を取り扱っています。小児科では、一般診療に加え肥満外来、腎疾患、循環器外来と専門外来の診療にあたっています。

スタッフはベテランの看護師11名と視能訓練士2

名です。C外来では、診療が多岐にわたるため、それにとれない手術前後の指導やフットケア、自己導尿、化学療法やホルモン療法を受ける患者の指導、成長ホルモンの自己注射や肥満児の生活指導など、専門性の高い看護の提供が望まれます。そのため日々研鑽を重ね、患者さんに満足していただけるように努めています。

高齢で目や耳が不自由な患者さんが多いため、転倒や転落などをおこさないように安全には十分に注意し、感染症の多い小児科では感染拡大の予防に気をつけています。手術や検査の説明では丁寧でわかりやすい言葉で患者さんやご家族が理解できるように心がけています。



さまざまな診療科に対応していますので、わからないことやお困りのことがありましたら遠慮なくおたずねください。



薬の話

なるほど!
なっ得!

薬と服用時間

みなさんが病院や薬局で薬をもらったとき、「1日3回毎食後」や「1日2回朝夕食前」などの飲み方が書いてあるのを目にしたいと思います。今回は、薬を正しく服用できるよう、服用時間について紹介します。

よくある飲み方

■「食後」 食事の30分後まで

最も一般的な服用方法です。食後に服用することで、薬により胃が荒れるのを防ぐことができます。

■「食前」 食事の20~30分前

食前に服用することで、食中から食後に効果を発揮します。胃の調子を整えて食欲を増す薬や、食べたあとの吐き気を事前に抑える薬などがあります。

■「食間」 食事の2時間後

空腹のときに服用することで効果が最大限に発揮されます。食間とは、食事の最中ではありません。食事と食事の間に服用しましょう。漢方薬や毒素を吸着する薬などがあります。

■「就寝時(寝る前)」

寝る前に服用することで、寝つきを良くしたり、翌朝に効果を発揮したりします。
④睡眠薬は寝る準備をすべて整えて、床に入る前に服用しましょう。

■「頓用(とんぷく)」

症状が出たときに服用することでその症状を抑えます。「頭痛時」「便秘時」など医師の指示にあわせて服用しましょう。

とくに注意が必要な飲み方

■「食直前」 食事をとる直前(食事の15分前)

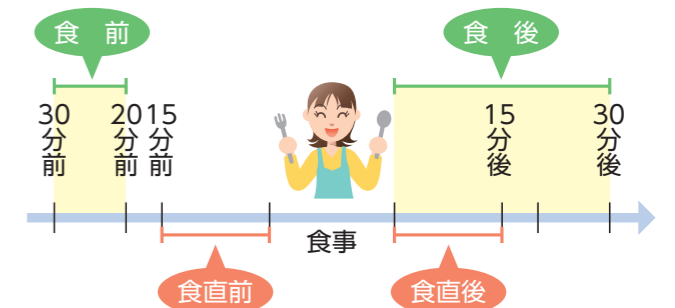
食べ物より先にお腹に入ることによって効果を発揮します。食事の準備を整えてから「いただきます」の前に服用しましょう。
④糖尿病の薬は低血糖が起こるのを防ぐためにも、服用後すぐに食事をとるよう心がけましょう。

■「食直後」 食事を終えた直後(食事の15分後まで)

確実に食べ物と混ざることによって効果を発揮します。食事を終えて「ごちそうさま」と同時に服用しましょう。

■「起床時」 朝起きてすぐ

お腹が空っぽである起床時に服用することで効果を発揮します。食べ物と一緒に入って、薬の吸収が低下するのを防ぐためにも、朝起きてすぐに服用しましょう。
④骨粗鬆症の薬はコップ1杯(約180cc)の水と一緒に服用し、服用後30分は横にならず、水以外の飲食や他の薬の服用はさけてください。



薬を正しく服用することで、十分な効果が得られたり副作用を減らしたりすることができます。決められた服用時間をきちんと守って薬を服用しましょう。また、時間通りに薬を服用できなかったときは、自分で判断せずに医師や薬剤師に相談してください。

2015年 新年のご挨拶



病院長 石束 隆男
いしか たかお

あけましておめでとうございます。

当院は1900(明治33)年官営八幡製鐵所の附属病院として設立され、今年で116年目を迎えます。2011年12月には社会医療法人の認定を受け、病院名も「社会医療法人 製鉄記念八幡病院」へと変更し、丸3年が過ぎました。当院は急性期病院、臨床研修指定病院、救急告示病院、地域医療支援病院として、地域医療に貢献しています。2013年3月には日本医療機能評価機構による病院機能評価(Ver.6)の認定を受けました。2014年には医療の質とサービス向上のため、10月に「歯科・口腔ケア科」を、11月には「入院支援センター」を立ち上げるなど病院運営の改善に取り組んでいます。

本年は地域のみなさんとのつながりをより強いものとするために、当院の「使命・理念・職員行動指針」を新しく制定いたしました。これまで以上に救急医療の充実を図り、血管病、がん、呼吸器疾患等診療に注力します。さらにホスピタリティを高めつつ、質の高い地域医療を実践してまいります。地域のみなさんのご期待に沿えるよう、職員一同心を合わせて診療に努める所存です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

使 命

住民の暮らしを支え、健康長寿をめざした地域づくりに貢献します

理 念

皆さまが納得・安心する最良・最適の医療を提供します

職員が誇りと自信を持つことができる職場づくりを追求します

伝統を継承し、未来を見据え、地域から信頼される病院をめざします

職員行動指針

わたしたちは皆さまの命と尊厳を守ります

わたしたちは皆さまに誠実に接し、その自立を支援します

わたしたちは自己研鑽を積み、プロフェッショナルとして成長しつづけます

わたしたちは社会人としての高い人格と倫理観をそなえることに努めます

わたしたちは地域の一員としての自覚を持ち、行動します

新任医師紹介



■脳神経外科主任医長 山口 慎也 やまくちしんや

11月に着任しました。手術に加え、カテーテルを用いた切らない脳外科疾患の治療を行います。頑張ります。



■呼吸器内科 田原 正浩 たはらまさひろ

10月から呼吸器内科に着任しております。田原正浩と申します。みなさんよろしくお願いいたします。



■耳鼻咽喉科 藤村 晶子 ふじむらあきこ

はじめまして、耳鼻咽喉科の藤村晶子です。10月より耳鼻科専門医に認定されました。よろしくお願いいたします。



■放射線科 寺澤 岳 てらさわたかし

産業医科大学から来ました放射線科4年目の寺澤です。半年と短い期間ではありますが、よろしくお願いいたします。

Topics

体験型減塩イベント開催しました!

昨年10月3日、栄養管理部では九州栄養福祉大学と西南女学院大学との協力により、「体験型減塩イベント」を開催しました。

医師による血圧測定や、味噌汁の塩分測定、学生さんによるクイズコーナー、ふだん口にする食品の塩分を醤油で展示したコーナーなどがありました。参加者の方々は、開催時刻前から並ばれており、興味深くご覧になっていただき、医師や管理栄養士とのコミュニケーションも活発で盛況な会となりました。



イキイキ 健康長寿! 健康講座承ります

製鉄記念八幡病院では、健康講座やイベントでの出前講座を承っております。医師や看護師、リハビリ療法士、管理栄養士による健康長寿のコツのお話を身近に聞いてみませんか? 講座は無料です。ぜひ、お気軽にご連絡ください。

【講座タイトルの例】ポケない秘訣、減塩で健康長寿、血管を若く保つには、がんの早期発見、脳卒中にならないために、心臓病を防ぐには、糖尿病とうまく付き合う、骨粗しょう症の予防、転ばないための運動、認知症にならないために、介護のコツ、食事のお話 等リクエストにお応えします。

■お問い合わせ・連絡先 経営企画課 TEL093-671-9808

